

再板

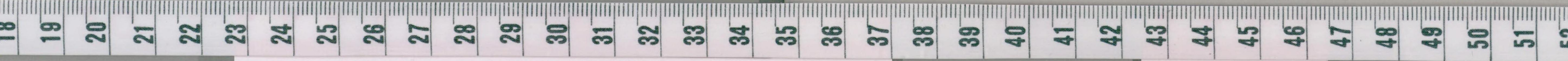
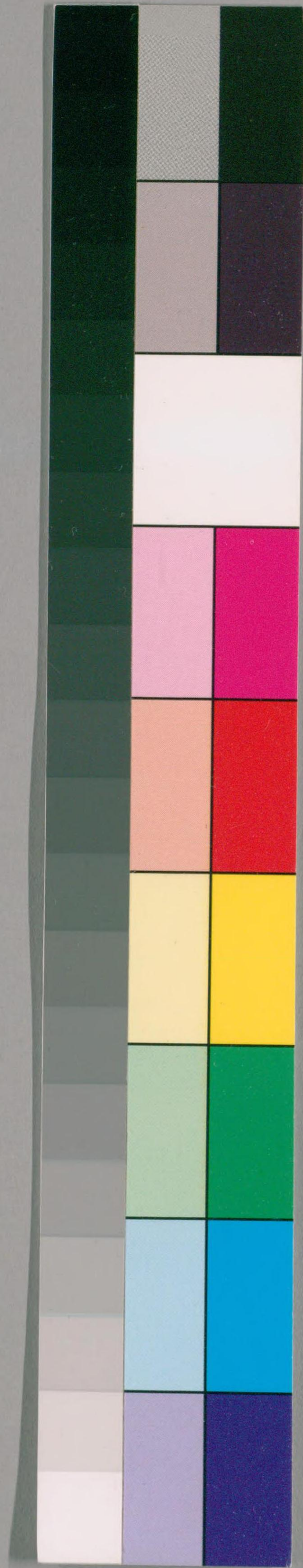
農業全書

藥種之類

生類養法

十

特
2296



国立国会図書館 タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296

ガラス使用

農業全書卷十目錄 二十五種

五符と五法 鶏 才二

家鴨 才五

水畜 才四

園作の藥種 當飯 才五

地黄 才六

川芎 才七

大黃 牡丹 才九

芍藥 才十

乾薑 才十一

茴香 牽牛子 才十三

山藥 才十四

天門冬 才十五

草麻子 白芷 才七

紫蘇 才八

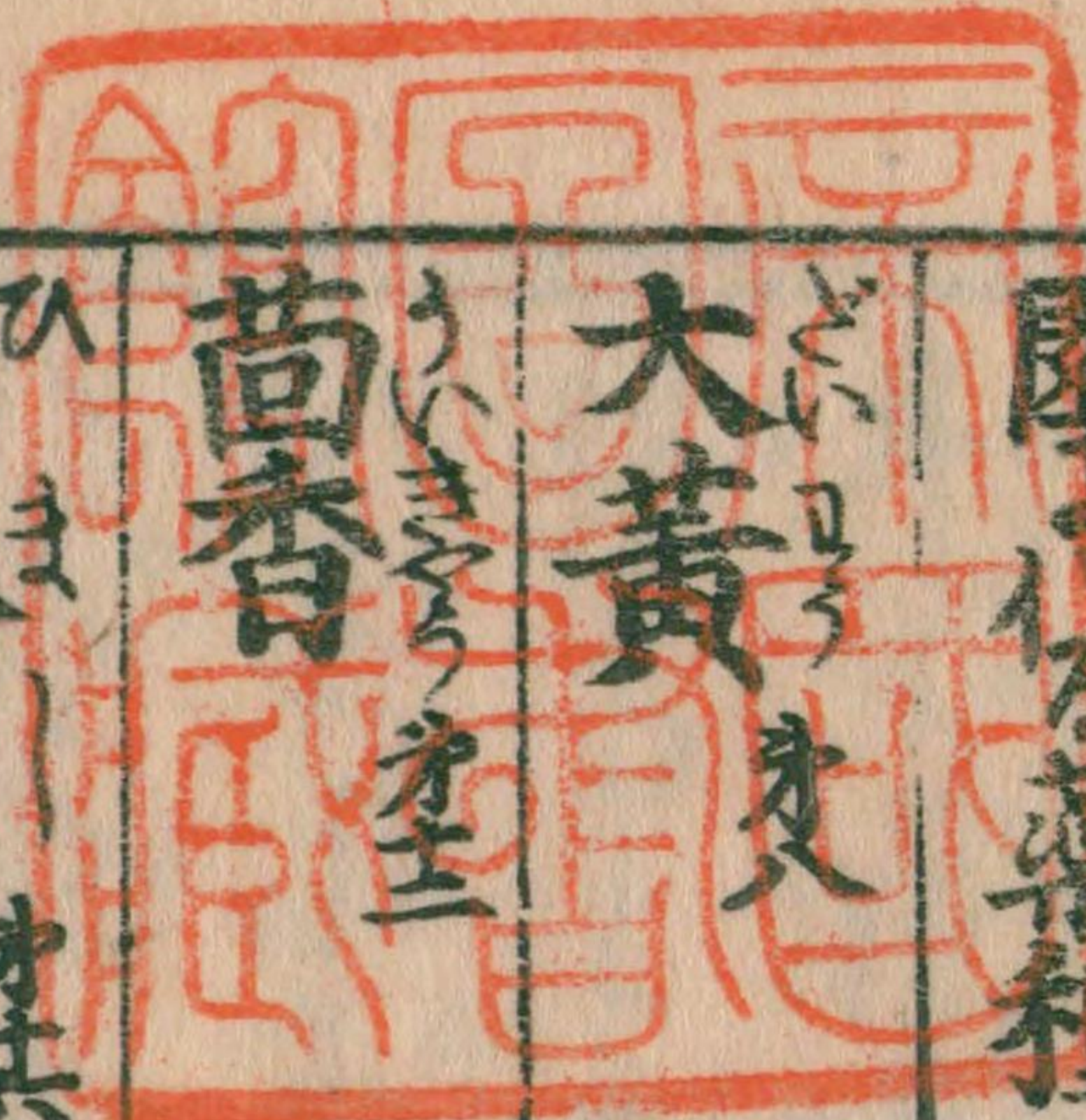
薄荷 才九

冬葵子 荊芥 才五

香薷 才六

澤瀉 才七

麥門冬 木賊 才五

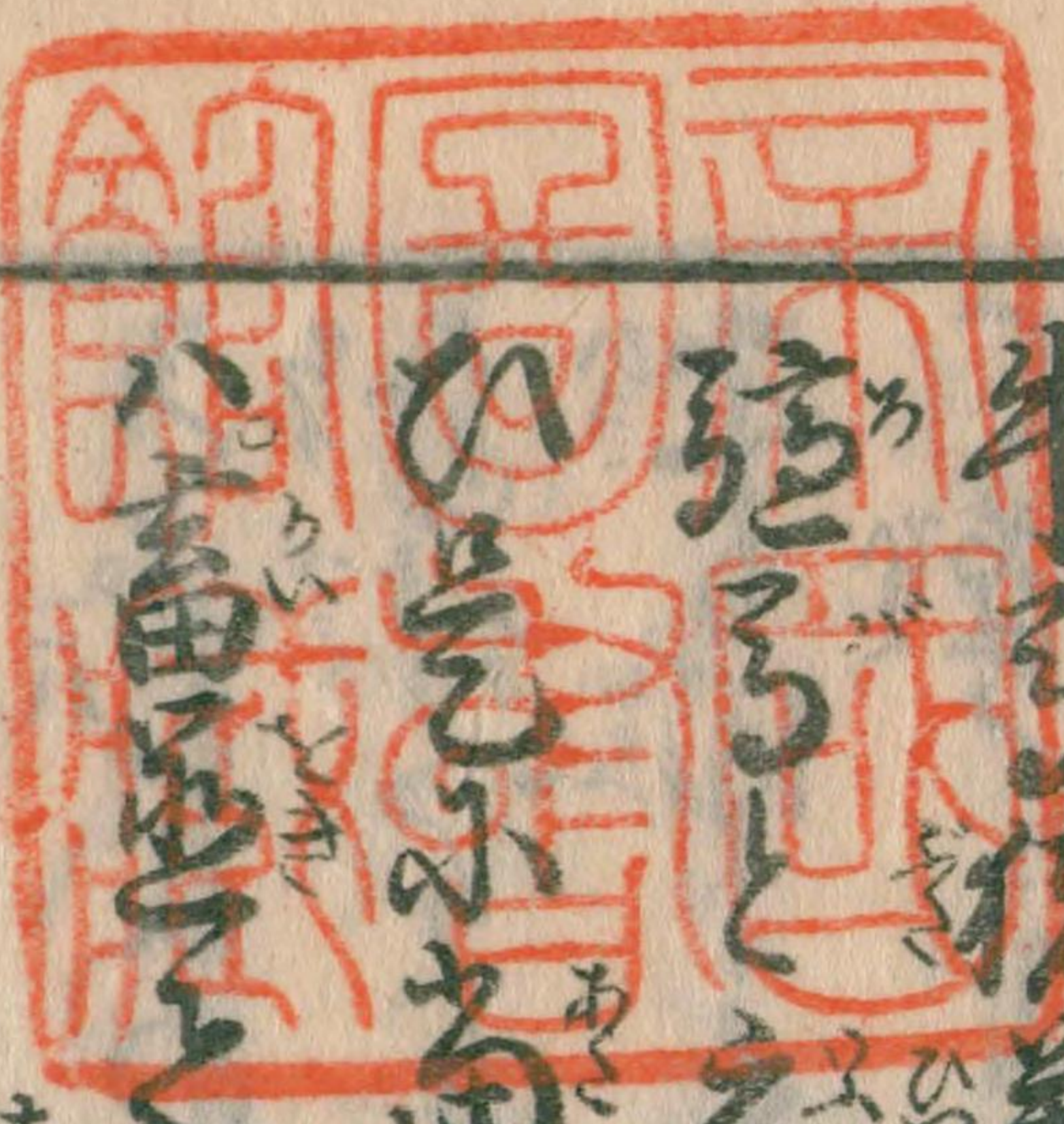


農業全書



農業全書卷十

五穀と畜法才一



陶朱公曰速く小あん^{とあらは}とあらは。又猪と鴨とべーとみ猪は
 牛も猪も羊も速きなりけ。又これ兎を飼生さるなり。
 速くしとておのけ國よはりしよりか。今れ耕ちるなり
 ぬきふあるべし。又家猪と鳥も猪と鳥もよく
 畜せしとて唐人よりとんとり。先牛馬の生れ
 ばいよくし。また鳥とてとる。此社と三月よ入と昔よ
 びよんからつる。また月よなりとく。又別く
 てとるべし。またよくとる。また路合つとて合と合

農業全書 卷十

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '農業全書' and '十月'.]



鶏 才二

仁い鳥、人家に必なくて、寸ぬおあり。鶏大乃二色
 八田舎よ、はま畜畜へ、そたふ多あり。産卵とん
 長たさあり。と来さむじとそと。一様あり。そと
 あり。そと所、ゆくして、さうい前よ、より、こく、根裡
 小そ、いふり、ゆ、離も、生、さか、こ、何を、作る、ゆも
 正、か、く、ど、中、鶏、乃、も、れ、あ、り、と、脚、乃、黄、なる、と、か
 ぶ、へ、又、卵、多、い、か、ら、は、の、こ、ふ、と、う、く、ど、も、清、く、て
 脚、細、く、短、く、卵、と、多、く、う、み、と、卵、と、よ、く、生、さ
 る、り、又、卵、多、い、声、れ、小、さい、ひ、あ、あ、り、○足、を、鶏

鶏の白さ、六指、れ、もの、四、距、乃、あ、死、して、足、の、申、さ、る
 の、皆、人、と、害、と、と、あり、料、は、と、する、よ、ん、と、可、い、へ
 一、○又、め、菜、乃、下、乃、ゆ、ん、鶏、と、食、す、れ、た、あ、り、と、
 虫、と、生、す、り、と、思、こ、り、○多、く、畜、り、ん、と、さ、り
 ち、の、廣、く、園、中、に、飼、く、か、さ、と、と、り、一、様、程
 大、指、の、入、さ、る、あ、り、と、多、く、作、り、と、小、さ、く、一、さ、る
 小、さ、と、作、り、と、中、に、樹、と、数、多、く、作、り、と、さ、り、と、
 れ、く、れ、ら、し、よ、け、り、む、し、ら、あ、り、と、多、く、入、り、と、
 巢、に、作、り、す、り、と、さ、り、と、さ、り、と、一、さ、り、と、栗、森、押、り、粥
 一、者、と、く、と、一、さ、り、と、多、く、あ、り、と、や、り、と、虫、多

くもたむらと餌とすべし。是時分よよりと
 もことして世とせらるる中と常あすをい
 ぬ。又一のめくれとく。中池とび餌とせ
 鶏肥と卵と多くうひたなり。園乃中と二
 ちとりとく。又雑穀の粒。その外牛と
 ともあつらふと多く貯て。んこお常よ
 一のうらむらとすべし。卵も雛も。無
 ち。と利とせらるる。なぬれ。廣と
 くの多く畜ゆ。けり。凡旅名。二の
 けみの行畜と中分とすべし。まな。い

日行のるい。ひふ果とせらるる。飯と
 入れあとも入きと細とすべし。○甚
 はんをらにそく。和を共よちなり。難
 のふせ。いあつらふ。た大と畜とく。あ
 一。ちとすべし。但。若うよ。は。人
 一。び。し。あ。ら。ん。の。あ。ま。り。と。多
 む。い。ま。の。あ。ま。り。と。多。く。す。べ
 家鴨 才三

わひつ。池河。あど。あ。あ。と。く。多
 多く。押。あど。多く。作。つ。き。地。あ
 多。り。よ。ふ。な。と。作。つ。内。揚。と。作。つ。て。ぬ。れ。の。あ。ま



三つにわかれぬ。其のくわひく。畑も十あまは。旅多二つ
り。この後の。くわひく。ち地とも。お乃。分号。より
て。うら。ね。多く。も。畜。へ。新。穀。粒。い。ら。な。び。ど。浮
る。よ。と。多。く。入。き。又。六。中。葉。れ。あ。り。く。つ。と。う。ね。も。お
わ。く。入。る。の。入。り。重。い。中。よ。ね。び。夕。あ。ま。く
む。う。う。り。集。り。多。り。畑。よ。入。り。う。よ。常。に。あ。ら。う。と
く。べ。地。の。は。れ。た。う。ら。下。人。多。か。と。あ。る。お。ま。れ
た。ま。と。し。て。餌。と。お。り。粉。夕。の。お。入。と。も。う。す。べ。い
お。も。と。れ。が。い。ぬ。と。う。ら。と。は。と。あ。さ。す。れ。た。と。も。導
と。い。ぬ。あ。る。お。も。く。も。中。に。玉。子。の。利。分。と。なる。べ。い。

一鴨一年に百六十此卵ハ産む。おなれ。百。産。鴨。の。卵。
鳥。一。百。六。十。は。價。や。と。く。と。も。一。費。同。知。い。あ。る。べ。い。
二。分。一。の。飼。料。の。費。と。あ。り。く。も。さ。ら。分。の。利。は。お
つ。池。底。お。と。人。が。よ。と。さ。い。あ。ま。く。い。た。ま。あ。る。人。の
見。ま。と。く。多。く。も。畜。へ。と。も。さ。れ。た。も。と。なる。と。も。外
乃。あ。ら。く。強。さ。い。強。さ。い。あ。り。う。わ。り。も。よ。ち。り。細
す。べ。一。第。一。い。も。も。れ。困。苦。と。ゆ。け。慈。心。と。も。なる。べ
あ。畜。と。く。魚。と。か。ひ。ま。あ。ら。う。も。立。あ。り。是。又。史
記。陶。米。が。傳。よ。ん。と。い。り。先。經。解。と。池。と。く。生。ら

あ畜 第四



へくも花よりあつるのなつらる花とらんるべしん
 のあ中へく魚と食ひつた中くうがうら
 強ふあはたふこつたはこつたはこつたはこつたは
 魚と抱へべしん ○ 鯉を入るは池の魚より揚梅とば
 うるべしんすは花池の中へくは花と食べ死るお也
 とも外毒の中へく後とよるあはらあはらあはらあ
 とより臨と流し又芭蕉乃根とたつたあはらあ
 そくたはすべしん池のあはら ○ 又池は魚と生を
 るる。程附くを池川乃常に魚れ多く集るあはら
 あはら池と魚と多くあはらあはらあはらあはらあはら

ほかどのあはらとよとらへくはらあはらあはらあはら
 池川へ入るは池の魚多くあはらあはら ○ 又
 魚れ苗と飼るるゆは池はよとふと魚と納りく
 多くあはら小池へ入るとは鶏鴨乃卵れ黄なるあはら
 飼ひ又大妻乃粉炒豆れ粉と入れく飼るまはらあはら
 かくふとらあはらされども鶏子ハ黄多し。麦豆稗
 乃粉と用ゆべしん一尺許はよとらあはらあはらあはら
 飼すべしんは菜又ハ菜よと。さきみと多くあはらあはら ○
 みるはかど死るる牛らの肉ととり細く切りりる
 菜れわらこよとらあはらあはらあはらあはらあはらあはら

農業全書 11



又小池の魚は風れ作らるる。松葉と多く池の中
にさるべし。たらまら虫除けなりとある。一、さる

園に作る菜種

當歸 才五



當歸の根はよとを煮てその汁をの苗とらん。根はよく
煮て花実もよとじてすひく。枯く煮て汁をとり
酒へよとよま。年れかぶと種らん。よく煮て汁を
くろく。よとよま。當歸の根はよとを煮てその汁を
酒へよとよま。年れかぶと種らん。よく煮て汁を

づき。芝ありく。菜はあもる。付る。時分く。むと。根と
煮る。よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。
よく煮て汁をとり。酒へよとよま。年れかぶと種らん。

りもあつた牛糞あつと作るやうにせつりするに依り
 しぬる二月梅しゆゆりおなり。畦作りまを考う
 ぬのこくすべし。せんと一尺をうりつるをたて
 たり。あつたすよ一かづつうべし。先苗とかり
 おこし。うゆりあつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 一かづつさし。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 さし。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 又たはさし。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 畦一畦の中。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 やし。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。

ふり。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 おも。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 は。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 点と。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 べし。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 ど。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 ども。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 山。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 子。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。
 も。あつたは乃さたよと。深く穴とけき。

かひをの肉はあてておく乾かして病むを食と見
 とく又かひの肉はあてておく乾かして病むを食と見
 ぬより。室の中より糞しこふし。糞ともうらさ
 らし。あてておくよう。あてておくよう。あてておく
 づよあてておくもろろ。かてておく。あてておく。あてておく
 ぬより。横あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 ぢてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 とひてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 かんてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 へてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく

よなぐり。初ら苗はあてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 かてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 ぬより。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 十一二月。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 ろべ。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 へてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 平わくべ。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 毎日。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 づ。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく
 へてておく。あてておく。あてておく。あてておく。あてておく



代派二あ海よ葦をへらりと云なり

川茅 草



川茅もらる葉なり昔は中切よふらうこと。實
永れ比も好のうら。と縁と傷へまくと。ちわうと多く
作らる。船前よ作らる。性うらうら。○先んてなよれ
通らる。さきと。又ハ小節ある。細ら。細と。かん。五府
別よ。あう。分。通。捕ら。ね。よ。ゆ。と。入。り。け。あ。て。く。す。ぐ。れ
と。他。ら。る。性。う。ら。た。れ。ど。島。と。冬。より。さ。つ。く。新。し。物。
し。ら。と。又。二。三。月。の。比。う。く。こ。ふ。一。睡。作。り。一。横。筋。を

ま。と。う。ゆ。ら。と。く。八。寸。一。尺。を。う。り。も。う。ら。と。あ。て。く。切
あ。う。び。ら。う。ら。も。あ。て。す。よ。一。科。づ。う。入。た。と。お。わ。ひ。五。生
て。は。ま。ら。う。塩。ひ。ら。と。他。の。作。ら。ね。は。同。ド。○。葉。と。用
ゆ。ら。る。先。初。ら。い。が。づ。と。と。へ。一。花。の。は。な。じ。と。かん。く
よう。の。多。く。入。へ。一。ゆ。ら。ら。な。ら。う。ま。又。い。ら。ら。い。や。う。
他。中。分。より。下。れ。去。よ。ハ。必。作。ら。う。ら。と。と。若。好。よ。て
作。ら。る。島。に。赤。ち。よ。ゆ。あ。と。小。石。も。交。つ。ま。へ。ら。う。ら。よ。も
ね。ら。ら。い。島。なり。○。播。ら。る。の。ハ。十。月。十。一。月。れ。ら。う。ら。う。
秋。と。よ。く。ひ。つ。と。が。ら。の。油。根。も。ま。く。ま。ら。と。た。く
洗。い。か。り。う。ら。と。と。へ。○。冬。よ。湯。と。あ。一。あ。い。煮。て

由及業全書

一六



笑うていして尻のよぶくぬく時をまておぐべ
し。考へるにわたり。○干よりゆん。干よりとこ
ゆか。そと又田の湯の一角を介信方より多く
用ゆるおなり。つとふと性より肥地あるおより
へ多くゆるべし。厚利のおなり

大黃 赤



大黃は是も医家より用ゆる薬材なり。○う
るは。一科よりくつよもつとく。比原よりくつと
る田と。穀類類し。かきもつとく。二月時作の薬

冠れぬく。一尺と二尺三寸も長く。うべし。葉
類も多し。ふとく。さうり中よりさうりく
冬よりなり。と。播き。一。地は。糞。一。入。と。く
まね。一。年。立。よ。も。お。用。ゆ。た。も。う。み。と。い。は。る
。性。も。強。し。大。氣。と。淨。く。洗。ひ。葛。ら。串。に。つ。ら。る。
干。葉。と。く。用。ゆ。べし。是。は。城。は。も。地。か。と。ま。と。く。ゆる。
唐。は。大。黄。と。稱。なり。葉。丸。く。厚。く。し。て。は。は。葉。に
よ。く。焼。く。蒸。ら。わ。る。く。ま。う。と。く。さ。う。ゆ。ら。わ。ら。り。お
く。よ。ら。う。る。係。大。黄。と。一。指。の。か。ら。ら。か。ぬ。と。洗
ぶ。り。る。お。あり。も。地。の。ち。か。ま。さ。入。細。粉。を。添。え。肥

農業全書



ふさびの區々への別々種よ一科づゝ入る
 毎年るるを異々そふの異と多くとてて
 のは根と振るべし海く改ひよくをくくる曲
 らざる振よ一七等とて一葉て厚利乃地なりむ
 毎年根とらるすして二三年も一葉て振る
 いへるもさ入るよう根をえびる。そまて竹目多
 おなるゆへさちの利と増べし。さるくも利と
 凡るおちるゆへさちをさるれ振かねも。海地の
 地なる暖ちるよとく。つとまて年ぐよ苗と
 へ立並べ。おて他のゆへさち。まらも入る。まら

作らるる利は多し。好多くゆへさち。まらも入る。まら
 筋まらるるふ花も。おまら。根は。一つんれ利。さるの
 とてあ。さ。面白く。まら。たゆ。おなり

芍薬 オ十



芍薬ハ牡丹よおつ。お漢古今も。世人花
 とおびる。このなり。好。と。東。部。を。え。を
 美。ぶ。さ。ら。ん。う。く。年。と。進。く。も。え。た。ま。ら。く
 多。く。お。ち。る。ゆ。へ。さ。ち。一。葉。て。厚。利。乃。地。の。一
 なる。と。別。の。白。と。白。芍。薬。と。と。あ。と。お。ち。る。芍。薬。と。入

是又を敷らるる種地ありはうへへ。さしついでにせ
 殺よもまことせ。その他のおつらひも。さしついでに
 西へうへへ。種地ありはうへへ。さしついでに
 なく。長くともひまもひも。さしついでに
 前へへ。種地ありはうへへ。さしついでに
 うへへ。種地ありはうへへ。さしついでに
 一。蔓も折と。種地ありはうへへ。さしついでに
 赤くも。種地ありはうへへ。さしついでに
 によへへ。種地ありはうへへ。さしついでに
 子と多く。種地ありはうへへ。さしついでに

山菜 才十四



山菜の性よ。さしついでに。種地ありはうへへ。さしついでに
 空に中よ。皮を剥り。さしついでに。種地ありはうへへ。さしついでに
 糸の移と。うり。種地ありはうへへ。さしついでに。種地ありはうへへ。さしついでに
 け。種地ありはうへへ。さしついでに。種地ありはうへへ。さしついでに
 了。種地ありはうへへ。さしついでに。種地ありはうへへ。さしついでに
 他。種地ありはうへへ。さしついでに。種地ありはうへへ。さしついでに

天门冬 才十五



おぼろがわどぬれをよくぬぐりておぼろが菜なり。おぼろて
ぼろをく洗ひまづー

白芷 オナセ



白芷ハ産のよ用ゆるかよけれどもおぼろましくは傷を
作らぬ。是も菜をよ賣くと利ありとらあり。肥
地と細うふておー。まねと射とぬるは月苗を
まらるといにも肥ゆるかなる。性うま地よ菜とら
ゆるとく。ぬれつて。高飯とゆるはのてとく
おー。九十月振と振ると浄く洗ひ干とくと

く成る時ぬれとくべー。二年おれを根もふとく
性も強ー。一年おれはふとく

白菘 オナハ



まら。菜は一およまらせり。菜は月ゆる。八月笑
ふ一日よ干とくとくおとくべー。おまて。陰平に
る。おとく。是も菜よ。まら。用ゆるおなる。お
にうて。まら。おとく。まら。おとく。まら。おとく。

白菘 オナハ



蒔荷まきかは是これも茶ちやより多く用ゆるおなる候なりなり。二
 指さしあり一色いろはうはうはうとく。氣味きみのよたあり
 是これよりべし。又またひんくつと云いあり。あゝ候なりなり
 らんぞ。○紀伊きいより一ひとなるにけは年としく自みづかり候なり
 おなる。一ひと條ぢやうと云いと。苗なえよりてもうのべし。睡すい候なり
 一ひと條ぢやうの茶ちやよりかゝり候なり。刈かり時ときはふじとある
 ころ下した紫むらさき糸いと付つ候なり。目め和わと云いと。刈かりはうす候なり
 一ひと日ひかゝり候なり。ほりけしはうす候なり。げり平へいうして
 茶ちやをよる人ひと。是これ八はち割わりの一ひとと云いと。なととをよる
 ひと。二ふた年としよゆめあり。ばばと云いと。賣うつ候なり。

み蒔子まきこ 才さい干かん



此こゝを蒔ま子こ。是これも茶ちやをよる人ひと。一ひと日ひかゝり候なり。賣うつ候なり
 條ぢやうと云いと。又また二ふた番ばんと云いと。お
 なる。是これハハ小せう葉えふと云いと。葉えふより候なり。花はなはあか
 色いろ。小せう葉えふより候なり。おふあり。と云いと。葉えふはくは
 大おほき。おふ。一ひと日ひかゝり候なり。

荊芥けいがい 才さい主しゆ



此こゝはも多おほく用ゆる茶ちやなり。葉えふより候なり。

俵へて種をとりてまきいふ。苗にせうゆり
 多。落荷と同ト。つらきをふくめへ。六月下旬よ
 菜とあてへ。七月菜うらるる時又あへ。まは
 七月花愛く刈らあみく平し。ままま。菜屋
 ふらふへ。あとのんとする。刈らあみのなり

香薷 才廿三



香薷は大小あり。小者葉とて菜細くこし
 こがたみとくちかれやうよんゆの倍よなをこあ
 たかうとあへてまきいふ。俵の又干らるまうと。荆

芥よかりのあへてまきいふ。俵の又干らるまうと。荆

澤瀉 才廿三



たくあやのあ田ようくうもも葉をようち。
 葎とらゆのほへ同ト。丹波とくむ多くそとゆる

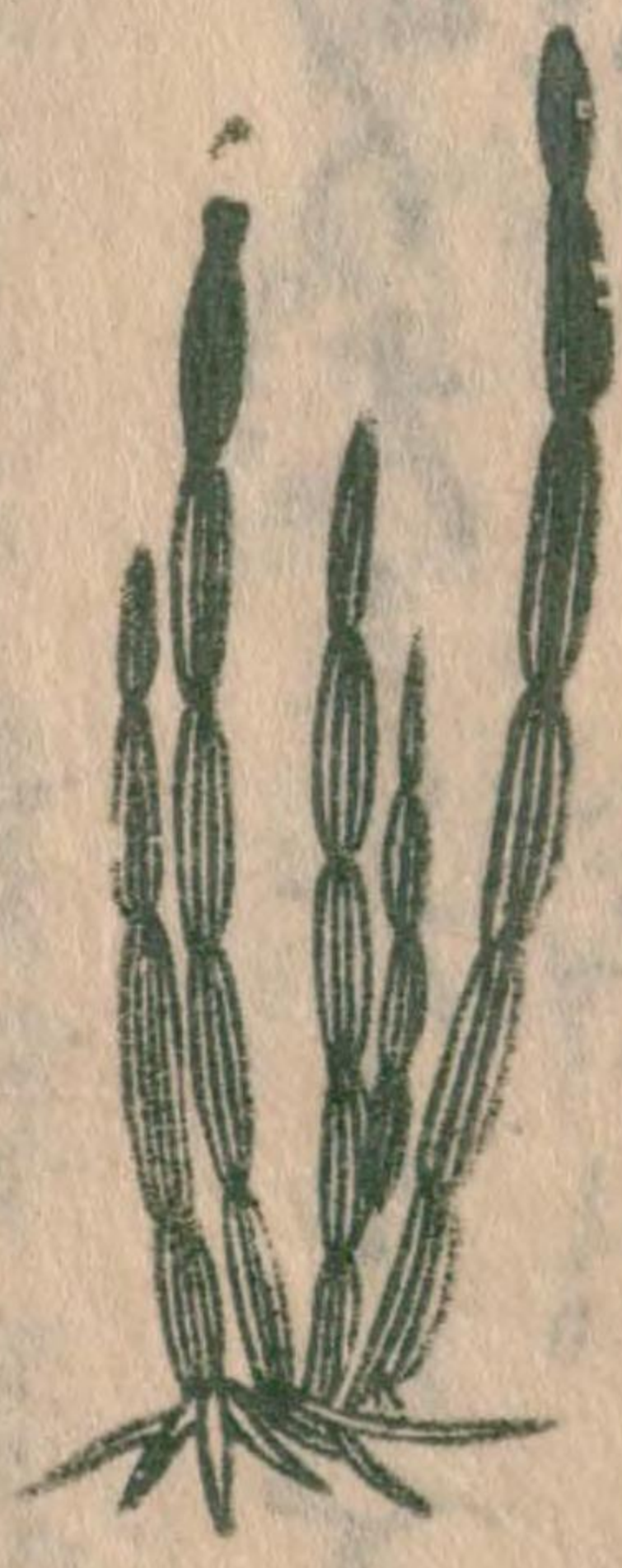
麦門冬 才廿四



ちくめんとう。是よ大小二種あり。大きなるはまはれ
 中よまはれ。葉花とひく性むう。大小共。圃ふ
 ありとあへてうけく。糞あてうけく。根を

さなり圃は作つるへたうしくせうよせらるるま
さなり

本賊 才世

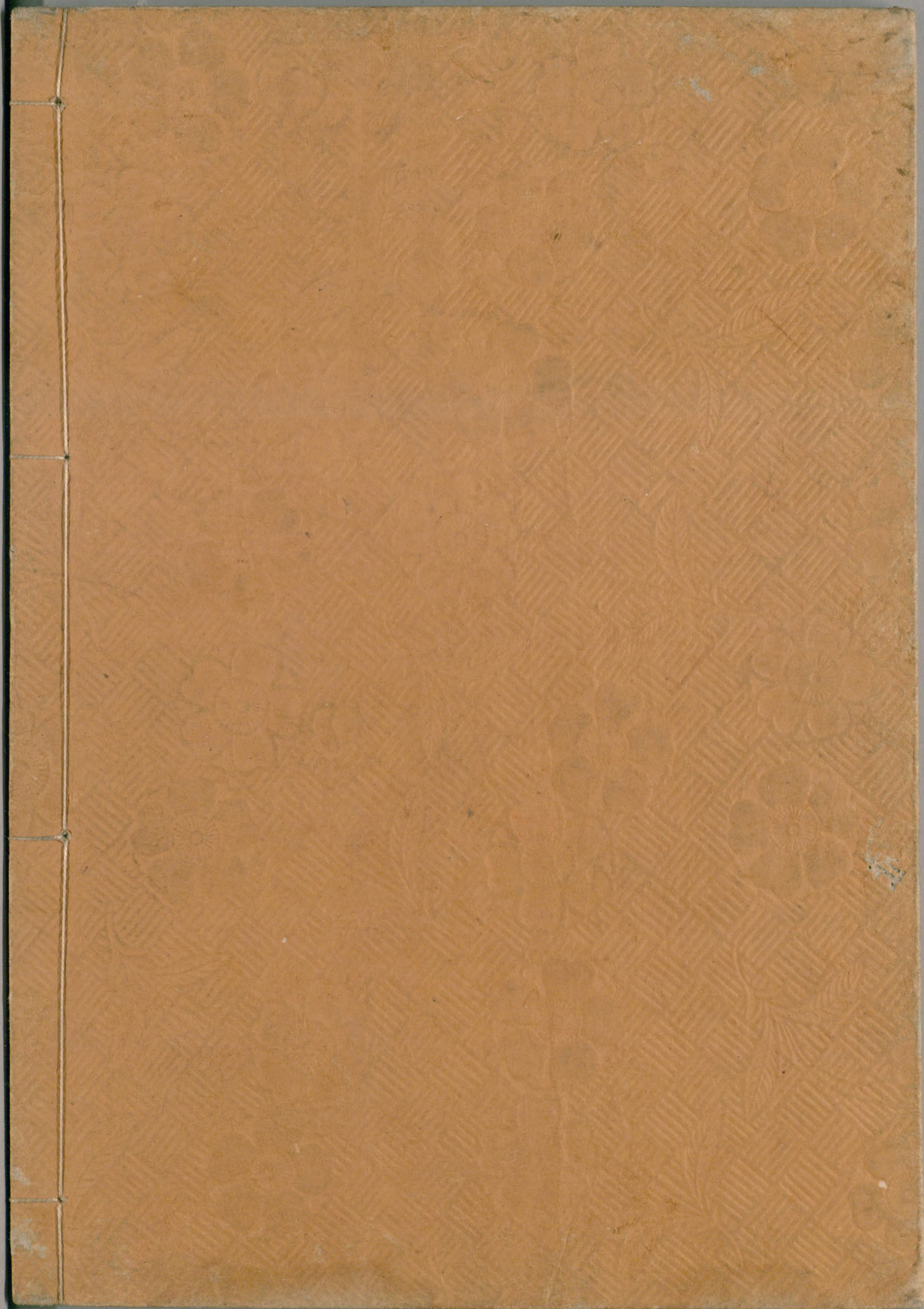


本賊ハ菜にも用ひ。細工よつる付へさくこと云々。
まう入くもめだり。正月は田圃とまき切る。
新莖生して。義あり。本草曰。胃よまへ。又曰。
あまけふ。○うゆる地ハ細うなる地。れやううる
るみ入くまきくあさうけくまきうくのびやうに
して用ゆるよたへり

十一卷

持 11
2296





国立国会図書館 タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296

ガラス使用